

「幼保小連携『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』学びの会」報告

①平成 31 年 2 月 1 日（金）棚倉町立棚倉幼稚園、②平成 31 年 2 月 2 日（土）白河市立図書館

【目的・趣旨／概要】

幼稚園・保育所・認定こども園、小学校関係者が一堂に会して、幼保小連携の意義や目指すべき目標、連携の名のもとに何ができるか、何をしなければならないか等について話し合う機会を設けた。



【連携先】

- ・棚倉町教育委員会、棚倉町立棚倉幼稚園
- ・パネリスト等：
 - 石川ユミ子氏（棚倉町立棚倉幼稚園教頭）
 - 米屋真由美氏（相馬郡飯館村立飯樋小学校教頭／までいの里のこども園副園長）
 - 神谷 明宏氏（聖徳大学児童学部准教授）
 - 室井 修一（国立磐梯青少年交流の家室長）

【募集対象／実績】

《募集対象》幼稚園教諭、保育士、小学校教諭、教育関係者等各回 30 名募集

《実 績》①2/1（金）40 名（幼保関係者 30 名、小学校 3 名、その他指導者 7 名）

②2/2（土）30 名（幼保関係者 18 名、小学校 4 名、その他指導者 8 名）

【プログラム概要】

①2/1（金）棚倉町立棚倉幼稚園 15:30～17:00

「全員参加型ワークショップ」

所長挨拶では、自然の家が幼児の体験活動に取り組む意義や取組の紹介を伝えた後、棚倉幼稚園石川教頭先生による幼保小連携を意識した実践事例についての紹介を行った。室井氏のファシリテートにより小グループに分かれ、「幼保小接続」について日頃感じていることを共有するために“えんたくん”を活用したグループワークを行った。全体でグループでの話し合った内容を発表し、園長先生からの講評があった。



②2/2（土）白河市立図書館 中会議室 3 10:00～12:10

「全員参加型パネルディスカッション」

所長挨拶の後、3 名のパネリストから幼保小連携を意識した実践や現場の実情、幼児期の体験活動の重要性について話題提供を行った。室井氏のファシリテートにより小グループにわかれ、前日と同様にグループワークを行った。幼稚園教諭や保育士のみならず、小学校教諭や保護者からも率直な感想などが聞かれ、活発な意見交換が行われた。最後に 3 名のパネリストから講評とともに参加者へのエールが寄せられた。



【成果】

- ・両日とも福島県南地域を中心に教育関係者が参加し、募集定員に達することができた。
- ・パネリストも参加者も、幼保小連携に関する現状と課題について真剣に向き合う姿勢がみられた。
- ・所属の異なる参加者同士が意見交換できる場を設け、参加者からはお互いの状況を共有することができ、好評であった。
- ・参加者からは、講師からの話題提供及び情報提供の機会として、今後も他園・小学校との情報交換ができる場となるよう期待する声が多くあがった。

《参加者の声》

「他園の取組みや共通の課題を知ることができ有意義な時間を過ごすことができた」「小学校の先生から低学年の取組みの様子を聞くことができよかった（幼稚園教諭）」「幼稚園が抱える悩みを知り、小学校教育に生かしていきたい（小学校教諭）」「今回のような、教育関係者が広く集う幼保小連携の機会をもっと開催してほしい」「行政の参加も強く望みたい」「時間が短かった」等

【課題と方策】

- ・小学校教諭の参加が少なかった。その要因の1つとしては、今回は幼稚園・保育園が参加可能な日程をヒアリングして、実施日時を決定したことと考えている。今後は、小学校側のニーズをしっかりと把握し、実践者や有識者と協働して企画することが重要である。
- ・小学校教諭の参加が少なかったが、参加者からはこのように幼児～小学校に関わる大人が一堂に集まる機会を望む声が多かった。
- ・今回は、まずは36の基本的な動き等、当機構の取組みや当施設のフィールドを知ってもらうなどの関係作りを前提としたことから、開催場所を参加者の利便性に考慮し施設外としたが、次回開催する場合は、参加者に施設で活動を実体験してもらう事業としていく。

国立那須甲子青少年自然の家【作成】事業推進係：宮崎一彰